

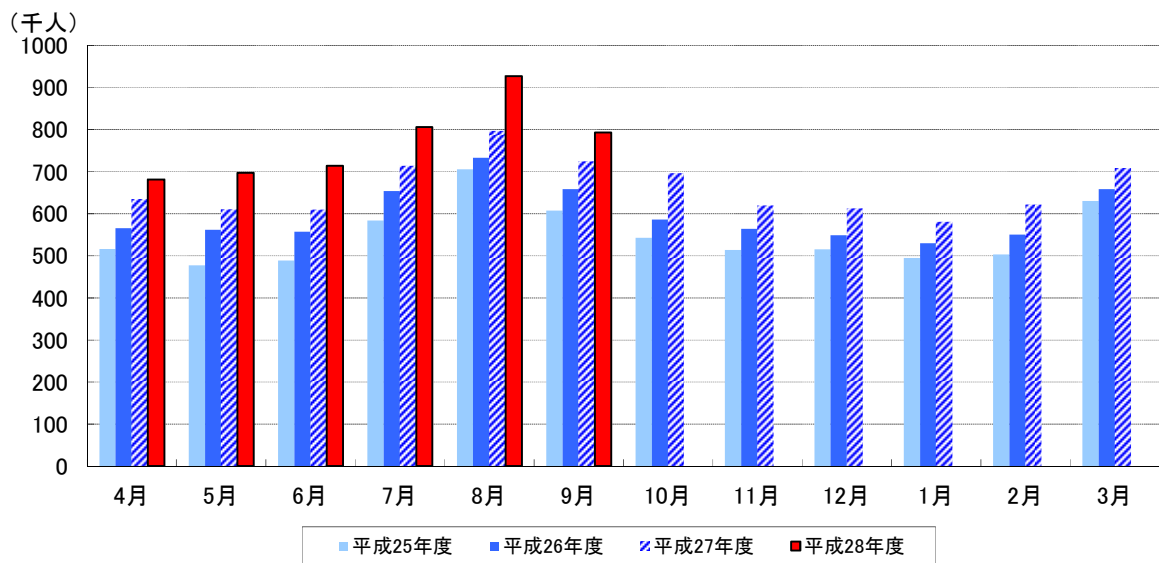
平成 28 年度上半期 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課
平成 28 年 10 月発表

**平成 28 年度上半期は、461 万 8,700 人で過去最高を更新
対前年度 (H27) 比 +52 万 5,700 人、+12.8%**

入域観光客数（国内＋外国）

■月別入域観光客数の推移（平成 25 年度～平成 28 年度）



■平成 28 年度上半期入域観光客の状況（平成 27 年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
平成28年度	681,500	697,100	714,400	805,800	926,900	793,000	4,618,700
平成27年度	635,400	611,400	610,000	714,000	797,500	724,700	4,093,000
増減数	46,100	85,700	104,400	91,800	129,400	68,300	525,700
増減率	7.3%	14.0%	17.1%	12.9%	16.2%	9.4%	12.8%

■平成 28 年度上半期の概況（総括）

平成 28 年度上半期の入域観光客数は、461 万 8,700 人となり、対前年同期比で 52 万 5,700 人増加、率にして 12.8%増となった。月別では、7月に初の 80 万人台を記録したほか、8月には単月の過去最高を更新するなど好調に推移した。9月までに 48 か月連続で対前年同月を上回るとともに、35 か月連続で当該月の過去最高を上回る客数を記録した。

前年度上半期と比べて増加した主な要因は、次のとおりと考えられる。

- 官民一体となった誘客プロモーションの効果
- 国内航空路線の拡充
- 海外航空路線の拡充及びクルーズ船の寄港回数の増

国内観光客についての動向

■平成 28 年度上半期国内観光客の状況（平成 27 年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
平成28年度	519,300	490,600	498,500	588,500	694,900	589,600	3,381,400
平成27年度	504,800	477,700	460,800	551,000	642,800	575,100	3,212,200
増減数	14,500	12,900	37,700	37,500	52,100	14,500	169,200
増減率	2.9%	2.7%	8.2%	6.8%	8.1%	2.5%	5.3%

■国内観光客の概況

昨年にと比べると台風の影響は少なかったこと、羽田－宮古路線の新規就航等を含む航空路線の拡充（※）に加えて、羽田・伊丹－那覇路線や羽田及び関西から離島への直行便も好調であったこと等から、各方面ともに堅調に推移している。

下半期は、景気はゆるやかな回復基調にあり、引き続き、航空路線の拡充が予定されていること等から、今後も堅調に推移することが期待できる。

※新規就航のあった路線：羽田－宮古、成田－那覇、茨城－那覇、岩国－那覇路線

主な増便のあった路線：羽田－那覇、伊丹－那覇、福岡－那覇、名古屋－那覇路線

外国人観光客についての動向

■平成 28 年度上半期外国人観光客の状況（平成 27 年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
平成28年度	162,200	206,500	215,900	217,300	232,000	203,400	1,237,300
平成27年度	130,600	133,700	149,200	163,000	154,700	149,600	880,800
増減数	31,600	72,800	66,700	54,300	77,300	53,800	356,500
増減率	24.2%	54.5%	44.7%	33.3%	50.0%	36.0%	40.5%

■外国人観光客の概況

昨年から引き続き、訪日旅行人気が続いていることに加え、沖縄発着航空路線が拡充（※）したことや、クルーズ船寄港回数が大幅に増加したこと等が、沖縄への入込増加の主な要因とみられる。とりわけ、5月から8月まで4ヶ月連続で単月の過去最高を上回る客数を更新した。国籍別では、中国や韓国の伸びが顕著となっている。

下半期は、引き続き、クルーズ船の寄港回数増が予定されていること等から、前年度以上の入込が期待できる。

※新規就航のあった路線：台北－那覇、ソウル－那覇、南京－那覇、香港－石垣路線

主な増便のあった路線：台北－那覇、ソウル・釜山－那覇路線